

第10課
12月8日



一致と破綻した関係

暗唱 聖句

「敵であったときでさえ、御子の死によって神と和解させていただいたのであれば、和解させていただいた今は、御子の命によって救われるのはなおさらです」(ローマ5:10、新共同訳)

「もし、わたしたちが敵であった時でさえ、御子の死によって神との和解を受けたとすれば、和解を受けている今は、なおさら、彼のいのちによって救われるであろう」

(ローマ5:10、口語訳)

今週の 聖句

Ⅱテモテ4:11、フィレモン1~25、Ⅱコリント10:12~15、
ローマ5:8~11、エフェソ4:26、マタイ18:15~17

安息日
午後
12/1

今週のテーマ

すでに触れたように、五旬祭のあとでさえ、信者同士の関係は、時折ぎくしゃくしました。新約聖書は、教会の指導者や個々の教会員がそのような課題に対処した例を何度も記録しています。これらの原則は、今日の教会にとって極めて価値のあるものです。それらは、私たちが聖書の原則を用いて対立に対処し、キリストにおける一致を保とうとするときに生じうる望ましい結果を明らかにしています。

私たちは今週の研究において、修復された関係と私たちの人間関係が、いかにキリストにおける一致に影響を及ぼすかに目を向けます。聖霊の働きには、人を神に近づけることと、人と人を近づけることが含まれています。また、私たちと神との間の隔ての壁、人間同士の関係の隔ての壁を壊すことも含まれます。要するに、福音の力の最大の証明は、必ずしも教会が言うことではなく、教会がいかに生きるかなのです。

「互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる」(ヨハ13:35)。このような愛がなければ、教会の一致に関する私たちのあらゆる話は、無駄になるでしょう。

パウロとバルナバは、イエスをあかしするために一緒に働きました。しかし彼らは、ヨハネ・マルコのような臆病な人間を信頼できるか否かを巡って（使徒 15：36～39）対立したのです。ヨハネ・マルコは、福音を宣傳伝えることの潜在的危険性のために、パウロとバルナバを途中で見捨てて帰国したのでした（同 13：13）。

「パウロは働きを放棄したマルコを非難し、一時は厳しいほどの批判を下していた。一方、バルナバは、経験のないマルコには無理もないことと思っていた。そして、彼は、キリストのために役立つ働き人になるにふさわしい資質を、マルコが備えていることを見て、マルコにこのまま伝道を放棄させてはならないと考えていた」（『希望への光』1420 ページ、『患難から栄光へ』上巻 182 ページ）。

神はこの人たちを用いられましたが、彼らの間の問題は解決を必要としました。恵みを説いた使徒は、彼を失望させた若き牧者に恵みを与える必要があり、赦しの使徒は、赦す必要がありました。ヨハネ・マルコは、バルナバの肯定的な指導を受けて成長し（使徒 15：39）、最終的に、パウロの心はその変化によって動かされました。

問1 テモテやコロサイ教会へ送られたパウロの手紙は、彼とヨハネ・マルコとの新たな関係や、この若き説教者への新たな信頼を、いかに明らかにしていますか（コロ 4：10、11、Ⅱテモ 4：11）。

パウロとヨハネ・マルコとの和解の詳細は不明確かもしれませんが、聖書の記録は明快です。ヨハネ・マルコは、パウロから信頼される仲間になりました。パウロはコロサイ教会に、「共に働く者」としてヨハネ・マルコを強く勧めています。最晩年、パウロはテモテに、ヨハネ・マルコを連れてローマへ来るようにと切に求めています。なぜなら、ヨハネ・マルコが「わたし〔パウロ〕の務めをよく助けてくれるからです」（Ⅱテモ 4：11）。パウロの働きは、彼が赦したと思われる若き説教者によって充実しました。両者の間の隔ての壁は壊され、彼らは福音の御業のために一緒に働くことができました。両者の間の問題が何であったにしろ、またパウロが、ヨハネ・マルコに対する自分のかつての態度は正しかったと、どれほど思っていたとしても、すべては過去のことでした。

◆ 私たちを傷つけたり、失望させたりした人を、どうしたら赦せるようになるのでしょうか。なぜ赦しには、以前の関係の完全な修復が必ずしも伴うとは限らないのですか。なぜ必ずしもその必要がないのですか。

ローマで監禁されていたときに、パウロはオネシモという逃亡奴隷に会いました。その奴隷は、コロサイからローマへ逃げて来たのです。パウロは、自分がオネシモの主人（フィレモン）を個人的に知っていることに気づきます。フィレモンへの手紙は、逃亡奴隷との修復された関係について、パウロが友人に書き送った個人的訴えです。

パウロにとって、関係は重要なものでした。使徒は、亀裂の入った関係が霊的成長にも、教会の一致にも有害であることを知っていました。フィレモンはコロサイの教会指導者でした。もし彼がオネシモに対して敵意を抱いているなら、それは彼のクリスチャンとしてのあかしや、信仰を持たない地域社会に対する教会のあかしに影響を与えるでしょう。

フィレモン1～25を読んでください。一見したところ、パウロが奴隷制の悪に対して強く反対していないことは、いささか驚きです。しかし彼の戦略は、はるかに効果的でした。福音は、理想的には、あらゆる階級的区別を解消します（ガラ3:28、コロ3:10、11）。使徒はオネシモをフィレモンのもとへ送り返しましたが、それは奴隷としてではなく、イエスにある息子として、主にあるフィレモンの「愛する兄弟」（フィレ16）としてでした。

パウロは、逃亡奴隷にあるのは暗い将来だということを知っていました。彼らはいつでも逮捕されえたのです。彼らには欠乏と貧困の人生が運命づけられていました。しかし今や、キリストにあるフィレモンの兄弟、意欲的な働き手として、オネシモにはより良い将来がありました。彼の食べ物、住む場所、仕事は、フィレモンの下で確保されるのです。破綻した関係の修復は、オネシモの人生に劇的な変化をもたらすのです。彼は「忠実な愛する兄弟」（コロ4:9）、福音におけるパウロの協力者になりました。パウロは、彼らが和解することを断固として切に願っていたので、2人のイエスの信者間で起こったことで何か金銭的問題が生じていたのであれば、自ら進んで自腹を切って払おうとしています。

◆ ここで見られるように、福音の原則を引き出すなら、あなたが他者との関係の中で抱えているストレス、緊張、亀裂に対処するのに助けとなるどんなことを得られるでしょうか。このような原則は、あなたの所属教会の一致が崩れるのをいかに防ぐことができますか。

問2 第2課で見たように、コリント教会は深刻な問題を抱えていました。Ⅰコリント3:5～11、12:1～11、Ⅱコリント10:12～15でパウロは、教会の一致にとって極めて重要ないやしと回復のためのどんな原則を概説していますか。

これらの箇所、パウロは教会の一致にとって極めて重要な原則を概説しています。彼は、イエスが御自分の教会のさまざまな働きを成し遂げるためにさまざまな働き手をお用いになるが、その1人ひとり神の国を築くために協力して働いているのだ、と指摘しています(Ⅰコリ3:9)。

神は私たちが競争のためではなく、協力のために召しておられます。それぞれの信者はキリストの体のために働き、共同体に仕えるうえで協力するために、神から賜物を与えられています(Ⅰコリ12:11)。より優れた賜物も、より劣った賜物もありません。すべてがキリストの教会において必要なのです(同12:18～23)。神から与えられた私たちの賜物は、身勝手に見せびらかすものではなく、福音を広める奉仕のために、聖霊によって与えられているのです。

他人との比較は、いかなるものであれ、賢明ではありません。なぜなら、それは私たちが落胆させるか、思い上がらせるからです。もし私たちが、ほかの人は自分よりはるかに「優れている」と思うなら、自分と彼らを比較して意気消沈し、どんな働きに携わってしようと簡単に弱気になってしまうでしょう。一方、もし私たちが、キリストのための自分の働きがほかの人の働きよりも効果的だと思えば、私たちはうぬぼれるでしょう。しかしそれは、クリスチャンが最も心に抱くべきでない感情です。

いずれの態度も、キリストのための私たちの効果や、私たちが互いに持つ交わりを損ないます。キリストが私たちに与えてくださった影響範囲の中で私たちが働くとき、私たちはキリストのためのあかしをすることに喜びと満足を見いだすでしょう。私たちの働きはほかの教会員の努力を補完し、キリストの教会は王国に向かって大きく前進するのです。

◆ あなたをうらやましがらせた伝道における賜物を持つ人を思い浮かべてください(難しくはないと思います)。その一方で、ほかの人と自分の賜物を比べて、あなたはどれくらいに誇らしく感じたことがありますか。問題は、パウロの心配事が、常に存在する墮落した人間の現実だということです。私たちがどちらの側に位置しようとして、どうしたらキリストにおける一致を保つために必要な無欲な態度を身につけることができるようになるのでしょうか。

赦しとは何でしょうか。赦しは、私たちがひどく扱った人の行為を正当化することでしょうか。私の赦しは、悪いことをした人の悔い改めにかかっているのでしょうか。私が腹を立てている相手が私の赦しを受けるに値しないとしたら、どうなるのでしょうか。次の聖句を読んでください（ロマ5:8～11、ルカ23:31～34、IIコリ5:20、21、エフェ4:26）。

キリストは、御自分と和解させるために率先して取り組んでくださいました。それは、私たちが悔い改めに導く神の憐れみです（ロマ2:4 参照）。まだ罪人であったときに、キリストにおいて神と和解させていただきました。私たちの悔い改めと告白が和解を生み出すわけではありません。十字架でのキリストの死がそうしたのです。私たちは、私たちのためになされたことを受け入れるだけです。

確かに、自分の罪を告白するまでは、赦しの祝福を受けることができません。これは、私たちの告白が神の中に赦しを生み出すという意味ではありません。赦しは、神の心の中に常にありました。そうではなく、告白によって、赦しを受ける準備ができるのです（Iヨハ1:9）。告白が重要なのは、それが私たちに対する神の態度を変えるからではなく、神に対する私たちの態度を変えるからです。罪を悔い改めさせ、告白させる聖霊の力に屈服するとき、私たちは変えられます。

赦しは、私たちの霊的健全性にとっても重要です。私たちが不当に扱った者を赦さないと、たとえ彼らが赦しを受けるに値しないとしても、それによって彼ら以上にあなたが傷つきます。もしだれかがあなたを不当に扱い、あなたが赦さないために、その痛みが心の中で悪化するなら、あなたはその痛みによって自分を一層傷つけているのです。どれほどしばしば、そのような感情や傷が、教会内の分裂や緊張の原因であることでしょうか。教会員の間で未解決の傷が、キリストの体の一致を傷つけるのです。

赦しは、私たちの裁きからほかの人を解放することです。なぜなら、キリストが御自分の裁きから私たちを解放してくださったからです。赦しは、私たちに対するほかの人の行為を正当化することではありません。私たちは、不当に扱った人と和解することができます。なぜなら、私たちがキリストを不当に扱ったときに、キリストが私たちを御自身と和解させてくださったからです。私たちが赦せるのは、私たちが赦されているからです。赦しは選択です。ほかの人の行動や態度にかかわらず、赦すことを選択できます。これが、真のイエスの精神なのです。

◆ キリストにあって得ている赦しに目を注ぐことは、他者を赦すことを身につけるうえで、いかに助けとなりますか。このような赦しは、なぜ私たちクリスチャンの体験の不可欠な側面なのでしょうか。

マタイ18:15～17を読んでください。イエスがマタイ18章で助言をお与えになった際の願いは、教会内の対人関係の対立をできるだけ少人数にとどめることです。彼の意図は、当事者である2人が自ら問題を解決することです。それゆえ、「兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで忠告しなさい」（マタ18:15）と、イエスは明言しておられます。2人の人間の対立に関わる人の数が増えるにつれ、さらなる争いが生じる可能性が高くなるとともに、その対立がほかの信者の交わりに影響する可能性も高くなります。人々はいずれかの側を支持し、戦線が張られます。しかしクリスチャンが、密かに、しかもキリスト教的愛と相互理解の精神において、意見の違いを解消しようとするとき、和解の雰囲気醸成が醸し出されます。その雰囲気こそが、意見の違いを解消しようと努めるときに、聖霊がともに働いてくださるのにふさわしいのです。

時として、対立を解消しようとする個人の訴えは、功を奏しません。そのような場合、1人か2人を一緒に連れて行くよう、イエスは私たちに勧めておられます。和解の過程のこの第二段階は、第一段階のあとでなければなりません。人を一緒に連れて行く目的は、両者の間の溝を一層深くすることではありません。不愉快な目に遭わされた人に加わる人は、言い分を証明したり、相手の人を非難したりするために行くのではないのです。彼らは、キリスト教的愛と同情から、疎遠になった2人を一緒にする過程に参加するため、助言者や祈りの仲間として行くのです。

問題を解決するためのあらゆる企てがうまく行かない場合もあります。このような場合、イエスは問題を教会に申し出なさい、と教えておられます。彼はもちろん、個人的対立の問題で安息日の朝の礼拝を中断することについて語っているわけではありません。最初の二つの段階が両者を和解させるのに役立たないのであれば、問題を申し出るのに適当な場所は、教会理事会です。ここでもまた、キリストの目的は和解です。一方を非難したり、他方の潔白を証明したりすることではありません。

「恨みが敵意へ変わるのを許してはならない。傷が⁵濃み、毒に満ちた言葉となって噴き出るのを許してはならない。それは聞いた者の心に感染する。苦々しい思いであなたの心や相手の心を満たし続けてはならない。あなたの兄弟のところへ行って、謙虚に、誠実に、その問題について話し合いなさい」（『福音宣伝者』499 ページ、英文）。

「お約束通り聖霊の恵みの雨が降るのに必要なことは、働き人が心にキリストを宿し、自己に死に、優越感を捨てて一致し、清められて互いに愛し合うことです」(『セレクトッドメッセージI』234 ページ)。

「もし私たちが主の大いなる日に、私たちの隠れ家にして高き塔であられるキリストの側に立つのであれば、私たちは覇権のためにあらゆるねたみや争いを捨て去らねばならない。私たちはこういった汚れたものの根をすっかり断ち切り、それらが再び芽生えないようにしなければならない。私たちは主の側にわが身を完全に置かねばならないのである」(『終末の諸事件』190 ページ、英文)。

話し合いのための質問

- ❶ コロサイ 3:12～17 を読み、使徒パウロがコロサイの信徒に追い求めるよう勧めたクリスチャンの資質について話し合ってください。このような資質は、なぜあらゆる対立を解決するための基礎なのですか。イエスがマタイ 18:15～18 でお与えになっている原則を実行するうえで、いかにそれらは私たちの指針となりますか。
- ❷ コロサイ 3:12～17 と、そこに見いだされる教えを見直してください。それらの教えは、なぜ教会の一致にとって極めて重要なのですか。
- ❸ 私たちが私たちの教会、つまり全体としてのセブンスデー・アドベンチスト教会について考えるとしたら、この世に働きかけるために必要とされる私たちの一致を妨げている最大の要因は何ですか。それは私たちの教えや教理ですか。これらは、この世に宣べ伝えるようにと神から私たちに与えられたものです。たぶん問題は私たちの中に、つまり私たちの対人関係、ささいなねたみ、言い争い、身勝手さ、支配欲、その他もろもろの中に存在するのでしょうか。全教会の中に一致を見る前に、なぜあなたは、あなた自身の中で起きるべき変化をもたらす聖霊の力をくださいと、懇願しなければならないのですか。

まとめ

イエス・キリストの福音は、いやしと変化に関係しています。いやしと変化が与えられるとき、それらは私たちと他者との関係に影響を及ぼさずにはいられません。聖書は、罪の世にあっても、どうしたら私たちが良い、親しい関係を他者と築くことができるのかについて、説得力のある原則や実例を示しています。